

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立

深町

小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数）

### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

## 3. 教科に関する調査結果の概要

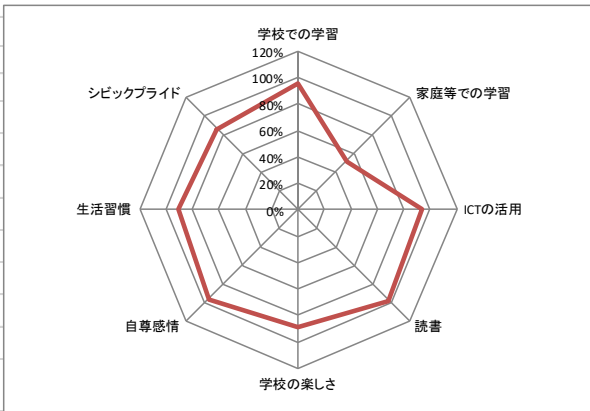
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っていた。「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率とほぼ同レベルであった。しかし、「書くこと」「読むこと」の2領域については課題が残される。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分のききたいことと中心をと捉える問題	
	努力が必要な問題	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題。日常よく使われる敬語を理解している問題。情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う問題。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っていた。どの領域においても全国平均を下回っており、課題がある。特に「数と計算」図形」「変化と関係」の3領域については課題が残される。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる問題	
	努力が必要な問題	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを指揮や言葉を用いて記述する問題。(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・ 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立ちたい」「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」「いじめはどんな理由があってもいけないこと」などの問いに約90%の児童生徒が肯定的に回答している。	
・ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した割合が低かった。しかし、児童は「国語の勉強は大切だ」「算数の勉強は大切だ」と考えている児童は95%を超えているこのことから、家庭での読書活動やタブレットを使ったドリル学習など、個々の課題に合わせた課題を提示することによって児童のやる気を伸ばす家庭学習を行えるようにする必要がある。また、自分で自分の課題を把握することが苦手な傾向にあり、授業の中に自主的に課題を設定して取り組む活動を意識的に設定する必要があると考える。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 「わかる・できる」喜びを実感しながら、基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けるとともに、「もっと考えてみたくなる」「もっと表現してみたくなる」意欲を育てる。
- 学習過程を工夫し、1時間の授業の中で基礎的・基本的な知識や技術の確実な定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 宿題や家庭学習について
  - ① 発達段階や個に応じた内容を再検討する。
  - ② 「何をどう取り組めばよいか」自分自身の課題を把握する力を育てる。
  - ③ AIドリルの一層の活用を図る。
- 身近な人や地域の行事に対して積極的にかかわることができるようにするため、市民センターとの連携を密にする。学校が地域と家庭をつなぐ活動や場を設定する。学校開放日に合わせて保護者や地域の方々が交流できるような場や活動の設定を検討中である。